

令和三年年四月七日（水）、市川市の山崎製パンクリエイションセンターに於いて六十周年記念「第三十二回花と緑の吟行会」が行なわれました。選句結果は以下の通りです。

大会賞

継橋の人つぎ世継ぎ花は葉に

七田 文子

つかのまに渡る継橋かげろへり

松林 依子

つばめ来る商店街をふるさとに

苗村 登志子

染谷 秀雄選

特選 よく晴れて残れる橋に春の塵

石崎 章子

真間山も街もつなぎて囀れり

甲州 千草

つばめ来る商店街をふるさとに

苗村 登志子

入選 つかのまに渡る継橋かぎろへり

松林 依子

よく響く笥の音や春の水

組橋 伶子

鐘楼のなぞへ明るく著莪の花

宮下 桂子

囀りの恋唄届け手児奈へと

三木 千代

支へ受け枝垂桜は身を尽し

宮沢 千恵子

男坂登りきつたり芽吹山

七田 文子

老桜を天蓋として句碑凛々

金田 誠子

切り通し出でて江戸川風光る

小林 豊子

行く春や二人で潜る夫婦樟

三上 佐智子

継橋の人つぎ世継ぎ花は葉に

七田 文子

散るさくら灰とまとうて夜泣石

金田 誠子

てふてふの真間の継橋越えゆけり

永岡 好友

春愁のさざ波に日の立ちみちて

須田 節子

詩あまた生みたる桜枝垂れたる

和田 紀夫

踏青や子を遊ばする渡し跡

堤 宗春

花酔ひのこの身を醒ます花の風

藤代 康明

囀れる紫烟草舎の鎮もりに

相沢 恵美子

囀のこの弘法寺を去り難し

吉岡 佳夏

もろくさを踏めば匂へる野に遊ぶ

藺草 慶子

高橋 道子選

特選

つかのまに渡る継橋かぎろへり

松林 依子

釣人に確認したる臙富士

田部井 幸枝

清明や羅漢の井より時流れ

頓所 友枝

入選

鐘楼のなぞへ明るく著莪の花

宮下 桂子

春を行く万葉の歌称へつつ

杉原 かほる

桜蕊ふる古る石棺に蓋のなく

平松 うさぎ

継橋の人つぎ世継ぎ花は葉に

七田 文子

花冷の参詣涙石踏まず

宮下 桂子

雲流れ古戦城址の薔薇芽かな

西井 久美子

額縁となる山門や花楓

関 妙子

手兒奈碑の文字運び出す蝶の昼

西井 久美子

真間の磴背に花冷えの街鎮む

広海 あぐり

桜蕊降るや巖のごとき幹

和田 紀夫

川岸に揺らしては寄る春日傘

須田 節子

つばめ来る商店街をふるさとに

苗村 登志子

一枝の牡丹に偲ぶ茶室跡

関 妙子

囀や葉づれの音や手兒奈堂

望月 晴美

桜蕊ふるキャンパスの中通り

中澤 美佳

落花なほ龍は手水へ水を差し

志鳥 美鈴

亀鳴くや手兒奈の池のうす濁り

岡本 幸治

ハイヒール投げ出す春の昼休み

中田 裕子

仁王門くぐれば読経めく正東風

下山田 俊

柳影手兒奈ゆかりの池の面に

宇根 幸子

千田 百里選

特選

春惜しむ巡回バスの列につき

広海 あぐり

桜蕊降るや巖のごとき幹

和田 紀夫

殿と呼ばれ振り向く若葉かな

木津 みち子

入選

先生来ました残花の句碑に頭垂れ

杉本 光祥

桜蕊降る水かけ地蔵の鼻欠けて

平野 みち代

行く春や泣きし跡ある夜泣き石

大沢 美智子

継橋を急ぐ落花の小さき渦

甲州 千草

桜蕊降る古る石棺に蓋はなく

平松 うさぎ

落ち着け落ちつけ火元はチューリップ	町山 公孝
咲ききりて伏姫桜樹医の肩	三木 千代
参道のなかば踏切待つうらら	稗田 寿明
さへづりの枝張る大樹羅漢の井	加藤 峰子
大河の中州に立ち寝春の鴨	望月 晴美
花酔ひのこの身を醒ます花の風	藤代 康明
幼子の尻もちとすん蝶の昼	前畑 桂子
学僧の幣の取替緑立つ	武野 しげお
囀れる紫烟草舎の鎮もりに	相沢 恵美子
八重桜ずしりと影を拡げをり	箕輪 カオル
道の辺に入江の名残り松の芯	志鳥 美鈴
薄命の手児奈に著莪の侍りける	生川 夢梨
たんぽぽや歩け歩くと土手光る	飯沼 静子
支へ木も蒼味帯びたる残花かな	藺草 慶子
野蒜摘む土手のなぞへに足かけて	相場 恵理子

西山 陸選

特選

新緑の奔流となり世をつつむ
道の辺に入江の名残り松の芯
もろくさを踏めば匂へる野に遊ぶ

小湊 はる子

志鳥 美鈴

藺草 慶子

執行 香

眉山 すだち

稗田 寿明

甲州 千草

町山 公孝

杉原かほる

増山 叔子

稗田 寿明

和田 紀夫

須田 節子

堤 宗春

猪瀬 達朗

苗村 登志子

岡本 幸治

石崎 章子

入選

花惜しむ真間に風生秋桜子
茎立ちや少年たちの虫嫌ひ
手の届くところのひかり梨の花
継橋を急ぐ落花の小さき渦
落ち着け落ちつけ火元はチューリップ
手の平に乗る程の幸土筆摘む
靈堂に猫の眠りて藤の花
参道のなかば踏切待つうらら
詩あまた生みたる桜枝垂れたる
川岸に揺らしては寄る春日傘
踏青や子を遊ばする渡し跡
青空へ飛花どこまでも風生碑
つばめ来る商店街をふるさとに
弘法寺の古墳をめぐる鳥の恋
花過ぎの空に溶けあふ愁ひあり

桶ひしやく整へ置かれ桜の実
対岸は寅さんの町葱坊主
凜々と春が立ちをり黒仁王
八重桜龍神堂なら参らうか

苗村 登志子
吉岡 佳夏
奥井 あき
小西 弘子

水内 慶太選

特選

継橋の人つぎ世継ぎ花は葉に
手児奈碑の文字動き出す蝶の昼
土手若葉矢切は川のむかふ岸

七田 文子
西井 久美子
木村 茜

入選

つかのまに渡る継橋かぎろへり
鐘楼のなぞへ明るく著莪の花
駘蕩と腹出し仁王眼の光
頬摺りすやつと立つてる桜木へ
枝移る鳥と目の合ふ初桜
桜蕊降る水かけ地蔵の鼻欠けて
空のあをなだれ伏姫桜かな
常しなえ乾かぬ涙石やよひ
手児奈姫川風まとひ梨摘花
桜蕊降る万葉の道の句碑
てふてふの真間の継橋越えゆけり
詩あまた生みたる桜枝垂れたる
臍たけるしだれ桜や絹の雨
伏姫ざくら葉となり蛇身かうがうし
万葉の道に継橋蝶の昼
弘法寺の古墳をめぐる鳥の恋
市川に手児奈のむかし風光る
新緑の奔流となり世をつつむ
坊主刈りして満天星のつつじかな
白秋の恋の隠れが春たくる

山田 桂
田部井 幸枝
市橋 聰子
平野 みち代
執行 香
柴田 歌子
杉本 光祥
石谷 美智子
永岡 好友
和田 紀夫
鈴木 楓
鎌田 光恵
鈴木 楓
岡本 幸治
磯貝 尚孝
小湊 はる子
しろがね 巖
中島 俊二